



Title	明治一四年
Citation	北大百年史, 史料(一), 533-561
Issue Date	1981-04-10
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/30100
Type	bulletin (article)
File Information	siry01_p533-561.pdf



[Instructions for use](#)

明治一四年

四四四 本科及び予科第二期授業時間割提出の件

第八号

千八百八十一年一月十七日札幌呈

開拓権大書記官鈴木大亮閣下

当月廿日ヨリ始ムル学期ニ於ル本科及予科生授業ノ日課ヲ示セル別紙ヲ此書ニ添ヘ謹呈ス教具

札幌農校教頭心得ウキルリアム、パイ、ブルークス

(別紙)

四年生第二期日課表 從千八百八十年 至同 八十年

土曜日	金曜日	木曜日	水曜日	火曜日	月曜日	午前
〃	〃	〃	〃	〃	土木学	從八時三十分至九時三十分
〃	〃	農学	演説	〃	農学	從九時三十分至十時三十分
〃	〃	〃	〃	〃	獸医学及 実験	從十時三十分至十一時三十分
〃	〃	〃	〃	〃	経済学	從十一時三十分至十二時三十分
〃	〃	〃	〃	〃	操練	從四時至五時

札幌農校教頭心得ウキルリアム、パイ、ブルークス

初年生第二期日課表 從千八百八十年 至同 八十年

土曜日	金曜日	木曜日	水曜日	火曜日	月曜日	午前
〃	英語	農学	〃	英語	農学	從八時三十分至九時三十分
〃	〃	〃	〃	〃	幾何学	從九時三十分至十時三十分
〃	〃	〃	〃	〃	化学実験	從十時三十分至十一時三十分
〃	〃	〃	農学	〃	〃	從十一時三十分至十二時三十分
〃	〃	〃	〃	〃	幾何学	從十二時三十分至二時
〃	〃	〃	〃	現術	〃	從二時至五時
〃	〃	〃	〃	操練	〃	從四時至五時

三年生第二期日課表 從千八百八十年 至同 八十年

土曜日	金曜日	木曜日	水曜日	火曜日	月曜日	英文綴 法及發 聲
〃	〃	〃	〃	〃	〃	英文 歴史
農学	果樹栽培学	農学	果樹栽培学	農学	果樹栽培学	自十時三十分至十一時三十分
〃	〃	〃	〃	〃	器械学	自十一時三十分至十二時三十分
〃	〃	〃	〃	器械学	〃	自十二時三十分至二時
〃	〃	〃	〃	操練	操練	自二時至四時

札幌農校教頭心得ウキルリアム、ピイ、ブルークス

千八百八十一年一月十五日札幌於テ

子科三級生第二期日課表 從千八百八十年至同八百八十一年

午前	從八時三十分至九時三十分	從九時三十分至十時三十分	從十時三十分至十一時三十分	從十一時三十分至十二時三十分
月曜日	讀書、綴詞	暗算及筆算	習字	英語
火曜日	說明	習字	和漢字	習字
水曜日	習字	和漢字	和漢字	和漢字
木曜日	習字	和漢字	和漢字	和漢字
金曜日	習字	和漢字	和漢字	和漢字
土曜日	習字	和漢字	和漢字	和漢字

監督ウキルリアム、ピイ、ブルークス

子科初級生第二期日課表 從千八百八十年至同八百八十一年

午前	從八時三十分至九時三十分	從九時三十分至十時三十分	從十時三十分至十一時三十分	從十一時三十分至十二時三十分
月曜日	讀書說明及綴文	文明史	和漢算術及代数学	和漢算術及代数学
火曜日	綴文	文明史	和漢算術及代数学	和漢算術及代数学
水曜日	綴文	文明史	和漢算術及代数学	和漢算術及代数学

木曜日	算術及代数学	和漢算術及代数学
金曜日	和漢算術及代数学	和漢算術及代数学
土曜日	算術及代数学	和漢算術及代数学

子科二級生第二期日課表 從千八百八十年至同八百八十一年

月曜日	地理学	讀書綴字及說明	英語	和漢字
火曜日	地理学	讀書綴字及說明	英語	和漢字
水曜日	地理学	讀書綴字及說明	英語	和漢字
木曜日	地理学	讀書綴字及說明	英語	和漢字
金曜日	地理学	讀書綴字及說明	英語	和漢字
土曜日	地理学	讀書綴字及說明	英語	和漢字

札幌農校教頭心得ウキルリアム、ピイ、ブルークス

〔道〇四五四八〕

四四五 サマーズ契約外の職務に付給与増額などの儀伺

十四年一月十七日

長官印(黒田)

調所大書記官印

語学教師ゼームス、サンマルス氏ヨリ定則滞札中別紙甲号ノ通照会

有之右ハ札幌ニ於テ職務ヲ命セラレシハ最初ノ定約面ニ矛盾スルヲ以テ容易之ヲ諾スル能ハス因テ更ニ増補定約ヲ作り猶俸給ヲ増シ而シテ其科業ニ従事致度トノ趣意ニ有之因テ乙号ノ通回答致置候同氏ノ職務ハ単ニ語学ノ一科ニ限り候処其実毎日三時間ハ予科ノ職務ニ従事致居候ニ付同氏ノ申立モ一応尤ニ相聞候間今般銀貨貳拾円ヲ増給シ是迄ハ銀貨百八十円ナリ而シテ語学及ヒ予科ノ二科ヲ公然為相勸度増給ト合テ式官門トナル候尤雇年限ハ先ツ従前ノ通十三年六月十三日ヨリ据置度候御允許ノ上ハ更ニ増補定約ヲ作り同氏へ相示シ其承諾ヲ取テ後テ太政官御届其外通牒方可取計候此段稟議候也

* サンマルス来状中予科教授頭請求ノ義ハ一校中兩教頭ヲ置キ混雜ヲ生シ可申候間御届不相成方ト奉存候事

印(安田) 印(護所)

〔別紙一〕

第百七拾五号

千八百八十年十二月九日於札幌

呈大書記官安田定則閣下

閣下在札幌ノ好期ヲ得テ小輩當地ニ在ル職位ノ事実ヲ陳呈スルヲ以テ閣下宜ク認顧ヲ賜ヒテ其事情ヲ御判正アラシコトヲ請フ
抑閣下トノ定約面ノ趣旨ニ抛レハ小輩ハ當地農学本營ニ於テ英語教授ノ一員ナリ是小輩カ御雇ノ任ヲ得テ当地ニ来ル所ナリ然ルニ此定

約面ニ対スル其事業ノ始ニ當テ曾テ予科ノ管理長タリシ今教頭心得ノ者ヨリ時間ヲ課定シテ小輩ニ示シ送レリ其来意ハ小輩ヲシテ日毎ニ予科ヲ三時間教授スヘシトアリ是御雇教師等ノ職ニアラサル所業ナリ

故ニ小輩ハ今ニ至テモ此指命ヲ拒ムモノハ吾カ定約ニ基テ職ヲ守ルモノナリ然レトモ小輩ハ之ニ拘ラス欣然教授ヲ始テ怠ラサルモノハ小輩ノ教授ノ當譽ニ要用ニシテ且裨益アルヲ以テナリ尤鎮台調所閣下ヨリモ小輩ニ同校ノ英語教師タルヘクノ台命アリタレトモ小輩ハ此件ニ付閣下ニ御通告及ヒ候迄ハ閣下トノ原約ヲ順守センコトヲ欲セリ

現定約上ニ述ル所ハ余ハ農学本營ノ教授ト記セリ然ルニ他ノ御雇外國教授ニ於テハ誰老人トシテ予科ヲ勤ムルモノ無シ故ニ小輩敢テ茲ニ論旨ヲ起シ將タ之ヲ起シテ道理ニ戻ラサラント信スルハ更ニ増補定約ヲ作り小輩ヲシテ予科ノ教授頭ト被成下俸給ヲシテ他ノ同僚教授ト平等タラシメンコトヲ希フ

然ル時ハ小輩ノ職位既定マリ小輩モ亦予科ヲシテ幼稚院ノ如クニ一層注意勉勵仕ヘキナリ仮令右ノ恩命ヲ拜スルモ予科ヲシテ教頭、事務長、等ノ管理ヲ免カル、ニアラス却テ予科ニ顯然タル利益ヲ与フルモノナリ勿論小輩ノ職務ニ時ヲ尽ス此上能ハサル所ナリト雖モ此事決ニ至レハ滿意沈着仕候然ルニ前述ノ如ク約定ニ基テ之ヲ推考

スル時ハ小輩ハ曾テ子科ニ關係セサルモノニ候ヘ共小輩ハ欣然謹テ其職ニ従事セリ尚ホ文末事情陳述仕候小輩カ当地ニ家族ヲ携帯スル莫大ノ費用或ハ当地住居ニ付種々ノ冗費且不自由等ノ為所得入俸ノ増加ヲ希フモ敢テ無理ナラヌコトト被思召度候恐惶敬具

ゼームス、サンマルス識

〔別紙二〕

西曆千八百八十年明治十三年十二月十七日

ゼームス、サンマルス貴下

貴下札幌ニ在テ職務ノ課業ヲ命セラレシハ最初ノ定約面ニ矛盾スルヲ以テ之ヲ諾スル能ハス因テ更ニ増補定約ヲ作り俸給ヲ増シ而シテ其課業ニ服從セントスル云々本月九日付ヲ以テ来意ノ趣了認セリ右ハ小官当地ニ携帯スル事務外ノ事項ニ付自ラ権外ニ涉リ成否御確答致兼候間帰京ノ上長官ヘ稟議シ追テ何分ノ可及御回答候承知有之度候敬具

開拓大書記官安田定則

〔農〇九〇〕

四四六 ブルックス雇繼の儀上申

乙第六号

外国人雇繼ノ義上申

当使雇札幌農学校教頭心得兼農校園監督米国人ウキリアム、ビ、ブルウクス儀本月六日雇滿期ノ処更ニ月俸銀貨三百円其余従前同一ノ条約ヲ以雇期翌日ヨリ向老ケ年間雇繼ノ義当使職制章程改正御達前於札幌及談判右雇繼ノ義本人承諾候尤給料ハ客歲十一月五日御達ノ正貨額内予算ニ見込有之候条此段上申候也

開拓長官黒田清隆代理

明治十四年一月二十一日

開拓使三等出仕西村貞陽

太政大臣三条実美殿

〔公文録三一一三〕

四四七 寄宿舍換氣改良の進言

千八百八拾一年二月一日於札幌

呈開拓権大書記官鈴木大亮閣下

乍略義本養生徒舍空氣疏通ノ儀ニ付拜啓仕候舍内ノ廊下ヲ通行シ若クハ舍中ニ入ル者ハ何レモ其空氣ノ不純粹なる不快の感觸ヲ生スルヤ明カナリ医学士カッター、モ既ニ生徒等ノ健康ヲ保護セン為メ此悪氣ヲ除去スルノ法ヲ設ケンコトヲ計画スト云ヘリ現ニ生徒輩既ニ肺患ニ罹ル者アリ是レ通氣不良ニ因ラサルハ無シ又カッター氏ノ考ニモ此通氣改良ニ要スル費用ハ甚タ些々タルベシ若シ貴下之ヲ設ルニ決セラレンニハ同氏欣然其見込ヲ呈スベシト

因テ余ハ切ニ貴下ノ御勸考ヲ希望ス万一目下右ニ充ラルベキ金額無シトスルモ此作事ノ如キハ遲滞ナカラシムコトコソ懇冀スル所ナリ拜具謹言

農學教頭心得ウイリユム、ビ、ブルークス識

〔農一〇七〕

四四八 尚友社設立に付復習講堂等拝借願

願 書

私共儀今般學術研究之為メ一社ヲ設立致シ尚友社ト名ケ毎月第一第三土曜日集會之上演說討論致シ度候ニ付テハ復習講堂并ニ燠炉拝借仕度且其節点鐘之儀相希候(尤モ「ランブ」薪等ハ各舎内ヨリ持參可仕候)依テ此段御許容被下度奉願上候也

十四年二月五日

- 福原鉄之助[㊦] 本土源二郎[㊦] 細川文五郎[㊦]
- 河村 九淵[㊦] 三増久米吉[㊦] 毛利鶴二郎[㊦]
- 中根 寿[㊦] 佐瀬辰三郎[㊦] 志賀 重昂[㊦]
- 渡瀬庄三郎[㊦] 結城 祥吾[㊦] 山下敬太郎[㊦]

札幌農学校御中

〔朱書〕
願之通リ

明治十四年二月十六日

〔別紙〕

尚友社規則

第一条 本社ノ主旨ハ學問上ノ件ニ関シテ討論研究シ俱ニ知識ヲ拡ムルニアリ故ニ苟モ社員タル者ハ能ク此意ヲ守リ共ニ學事ヲ研究スベシ

第二条 社名ハ尚友社ト称ス

第三条 社員ハ札幌農学校生徒ニ限ルモノトス

第四条 投票ヲ以テ社長副社長書記副書記ノ四名ヲ撰挙シ社事ヲ取扱シム

第五条 社長副社長書記副書記ノ任期ハ二回ヲ以テ限トス

但シ社長書記ハ滿期後一期間ハ全ク被選挙權ヲ有セズト雖トモ副社長副書記ハ之ヲ有スルモノトス

第六条 社長ハ社員ノ多数ノ決議ヲ以テ社事ヲ取扱フノ權ヲ有ス及ビ社員過半ノ同意アル時ハ臨時會ヲ開クコトヲ得ルモノトス

第七条 副社長ハ社長差支或ハ欠席ノ節之ガ代理ヲ為スノ任ヲ有ス

第八条 書記ハ會日ノ記事及ビ社員演說等ヲ記録簿ニ記載スルノ任ヲ有ス

第九条 副書記ハ書記差支又ハ欠席ノ時之ガ代理ヲナスモノトス

第十条 會日ハ毎月第一土曜日ヲ演說會トシ第三土曜日ヲ討論會トス

但シ演說會ハ午後七時ヨリ始リ同九時ニ終リ討論會ハ午後六時

三十分ヨリ始リ同九時三十分ニ終ルモノトス

第十一條 演説者ハ毎会四名ト定ム但シ撰定演説終ノ後時間アル節

ハ社員有志者演説スルヲ得ルモノトス

第十二條 演説ハ一人三十分ヲ越ルヲ得サルモノトス

第十三條 討論題ハ前会ニ於テ社員ノ多数ヲ以テ予メ定メ置クモノ

トス

第十四條 社員中差支アリテ欠席ヲ要スル時ハ其旨ヲ予メ書記ニ告

ケ置クベシ

第十五條 傍聴ハ校内生徒ノ外之ヲ許サズ

第十六條 毎会一人或ハ兩人ノ当番ヲ設ケ火燭等ノ諸取締ヲ為シ其

責ニ任ズベシ

第十七條 本庁長官副官及ビ農学校職員ハ時ニ臨視スルヲ得ルモノ

トス

〔農一〇四〕

四四九 森源三校長兼務の旨通知

十二号

札幌農學教頭心得ウイリアム、ビー、ブルークス江御書翰案

調所開拓大書記官儀今般農学校長兼務被免更ニ森權少書記官同兼務被命候条此段及御通牒候尚他ノ外国教授江者貴下より此旨御通達有

之度候教具

明治十四年二月七日

開拓權大書記官鈴木大亮

〔道〇四五四六〕

四五〇 明治一三年度予算削減に付伺

農策拾壹号

上局

検査課

札幌農学校(㊦)(森)(㊦)(加藤)(㊦)(加藤)

十三年度予算減額之義御達相成候ニ付精々減省ヲ加ヘ取調候処既ニ外国江注文済之品等も有之何分御達之額ニ而者難相支候条別紙調書之通校園費ヲ除キ更ニ金貳千五百四拾壹円拾六錢七厘増額御渡相成候様仕度此段相伺候也

十四年二月廿二日

追而校園之義ハ取調之上伺出候答ニ候也

〔別紙〕

十三年度予算現費調〔注〕

一金五千五百円

校員俸給

〔内金三千百円

十四年一月迄ニ支払済〕

金貳千四百円

二月ヨリ六月マテ予算

一金百七拾貳円五拾錢

雇員俸給

「内金百拾九円五拾銭

十四年一月迄ニ支払済」

「内金七拾三元九拾九銭壹厘

一月迄支払済」

金五拾三元

二月ヨリ六月迄予算

金千七百拾貳円三拾八銭四厘

外国購入品其外注文済

一金七千三拾貳円三拾貳銭八厘

生徒給

金九拾円

講堂イヌ繕ヒ其他
二月ヨリ六月迄予算

「内金三千五百九拾四円三拾貳銭八厘

前同断」

一金六拾円

療養費

金三千四百三拾八円

二月ヨリ六月迄予算

「内金拾九円九拾貳銭貳厘

一月迄支払済」

一金九百拾三元九拾壹銭壹厘

小使以下給料并雇入人足賃

金四拾円〇〇七銭八厘

二月ヨリ六月迄予算

「内金五百七拾八円九拾壹銭壹厘

十四年一月迄支払済」

一金貳百円

旅費

金貳百八拾五円

小使并掃除夫給料

一金百七拾円

印刷費

金五拾円

雇入人足賃「牧切り人足并温室」

「内金八拾銭

一月迄ニ支払済」

一金五拾四円七拾五銭

賄料

金百六拾九円貳拾銭

農業叢談十三年七月ヨリ十四年六月迄

「内金三拾貳円貳拾五銭

同支払済」

一金千〇貳拾貳円五拾銭

書籍

金貳拾貳円五拾銭

二月ヨリ六月マテ予算

「内金三拾三元五拾七銭五厘

一月迄ニ支払済」

一金拾八円貳拾七銭

筆墨料

金五百七拾貳円五拾銭

外国品注文済

「内金八円八拾七銭七厘

十四年一月迄支払済」

金四百拾六円四拾貳銭五厘

報文字算

金九円三拾九銭三厘

二月ヨリ予算

一金貳拾円

運送費

一金千〇五拾七円九拾壹銭七厘

消耗品

「内金六拾四銭九厘

一月迄支払済」

「内金七百〇九円四拾壹銭九厘

一月マテ支払済」

金拾九円三拾五銭壹厘

一月ヨリ六月迄予算

金七拾五円四拾五銭

注文済

一金百五拾円

賞答

金貳百七拾三元〇四銭八厘

二月ヨリ六月マテ予算

一金六百元

本草園費

一金千八百七拾六円三拾七銭五厘

備品

合金壹万八千八百四拾八円五拾五銭壹厘

御決定高ヨリ増加スル

金三千三百六拾九円拾六銭七厘

内 金八百貳拾八円

生徒給料増額何済

差引

金貳千五百四拾壹円拾六銭七厘不足

〔注〕 調書中朱書は「」で示した。

〔農一〇四〕

将来ニ維持候様仕度此段相伺候也

十四年二月廿六日

〔注〕 この文書は、教員（大嶋、工藤、宮崎、長尾、サ

マーズ）から校長へ伺ったものである。

〔農一〇四〕

四五二 サマーズ増給の儀に付問合

東京西村調所

鈴木

四五一 子科一級生徒一同無断欠席に付退校申付の旨上申

上局鈴木

森権少書記官鈴木

去二月廿五日子科一級生徒一同無断退散候段甚々不相済次第ニ付教

頭心得及諸教員申立之通り一同退校申付候間此段上申候也

明治十四年三月四日

付 子科一級生の処分〔注〕に付伺

昨廿五日之朝子科一級生徒一同無断退散候ニ付其事由取糺候処種々

之申立も有之候得共要スルニ教員工藤精一出席遅延ニ付講堂外ニ立

出候ものも有之候処同人之レニ欠席之点ヲ付し候故不快之余り他ノ

教員之授業ニも関セス退散候旨申立全ク党与ヲ結ヒ学校ヲ蔑視シ甚

々不相済次第ニ付一同退校申付他之生徒ニ其鑑戒ヲ示シ兼而校規ヲ

将来ニ維持候様仕度此段相伺候也

十四年三月十五日

〔注〕 この文書は、教員（大嶋、工藤、宮崎、長尾、サ

マーズ）から校長へ伺ったものである。

〔農一〇四〕

四五二 サマーズ増給の儀に付問合

東京西村調所

鈴木

秘サンマルス二十円増給ニテハ増補定約承諾セス若シ条約外子科教

授ノ廉ニテ月手当ノ訳ナラハ是迄ノ通勉勵スヘシト申出タリ右ニ取

計如何至急御返事アレ

十四年三月十五日差立済

付 右に付回答

明治十四年三月廿三日電信局

鈴木

西村

秘サンマルス云々電信申越ノ通りニテ教授シヒ其他ニ不都合ナクハ

当地ニテハ意存ナシ

〔農〇九〇〕

四五三 退校生徒再入校に付上申

上局⑨(鈴木)

森権少書記官⑨

予科第一級生徒不都合之次第有之一同退校申付候旨三月四日付上申仕候処其後一同深ク前非ヲ悔ヒ書面ヲ以テ謝罪ヲ表シ候ニ付猶諸教員ニ付シ協議為致候上左之通り再入校差許候ニ付此段更ニ上申仕候也

明治十四年三月十八日

- 〔未定〕〔朱書〕 小野 三郎
- 〔未定〕〔朱書〕 今 外三郎
- 〔未定〕〔朱書〕 友高 猪之助
- 〔未定〕〔朱書〕 中村 両吉
- 〔未定〕〔朱書〕 竹川 正三
- 〔未定〕〔朱書〕 田ノ内八男熊
- 〔未定〕〔朱書〕 小関 義信
- 〔未定〕〔朱書〕 大久保鶴二郎
- 〔未定〕〔朱書〕 内海 三貞
- 〔未定〕〔朱書〕 築瀬 真
- 〔未定〕〔朱書〕 宮原 精一郎
- 〔未定〕〔朱書〕 八木下任四郎
- 〔未定〕〔朱書〕 三木 右仲

〔農一〇四〕

四五四 生徒二名駒場農学校へ入校の儀依頼

第四百貳拾九号

当使農学生徒中英文熟達ノ者一名程御校へ入校之上獣医学修業為致

度候処右御教授ノ義ハ御差支有之間敷哉若シ御差支無之候ハ入校料等ハ無論当使より支弁可致尤右生徒者本年七月ヲ以テ語学卒業ノ答ニ付入校ノ義ハ同月以後何月頃可然候哉是又予メ申進置候間否御回答有之候様致度此段及御依頼候也

明治十四年三月廿二日

駒場野農学校長石沢明清殿

調所開拓大書記官

付 右に付回答

学往第七拾貳号

御使農学校生徒之中英語熟達之者式名当校獣医科江入学之義第四百貳拾九号纏々御申越之趣承知いたし候右者本年九月ニ於テ普通農学科江新生徒召募候間其節御申越相成度候尤該科江入学之上修業式ケ年ヲ経テ更ニ獣医科専門江進入可致校規ニ有之候得共御使生徒之義当校普通農学科卒業之者より上級ニ候ヘハ来ル十五年九月ニ至リ直チニ獣医科専門へ入学候テ差支無之候右同様之外中途ニ於テ入学上之義ハ授業上差支候間難行届候間孰レ共其節ニ至リ更ラニ御申越相成度此段御回答およひ候也

十四年三月廿四日

調所開拓大書記官殿

農学校印 (勸農局農学校)

〔農一〇五〕

四五五 農話會設立に付復習講堂拝借願

願 書

今般私共農学ヲ研窮センガ為農事茶話會〔朱書付箋〕「農話會〔原田〕」ナルモノヲ設立致候ニ付毎月第三土曜日午後第一時ヨリ同第三時迄復習講堂拝借致度此段奉願候也

明治十四年 早川 鉄弥〔印〕 堀 宗一〔印〕 河村 九淵〔印〕

五月十二日 三増 桑吉〔印〕 中根 寿〔印〕 岡 文二〔印〕

齋藤祥三郎〔印〕 手嶋 十郎〔印〕 原田 成貞〔印〕

校長森源三殿

〔朱書〕願之通 十四年五月十三日

〔別紙〕

農事茶話會〔朱書付箋〕「話會〔加藤〕」〔原田〕「仮会則

第一 農事ヲ談話シ之ヲ研究シテ北海道農業ノ進歩ヲ計ル事

第二 毎月第三土曜日ヲ以テ会日トス

但シ午後第一時ヨリ第三時迄ヲ限リトス

第三 本校生徒タルモノハ皆會員タルヲ許ス

第四 會員タラント欲スル者ハ本会ヘ相当ノ願書ヲ差出スベキ事

第五 退会セント欲スル者ハ願書ヲ以テ申出ベキ事

第六 會員ノ内書記一人ヲ撰ビ記録ノ事ヲ司ドラシム

第七 演説者ハ毎会三人トシ前会ニ定メ置ク事

第八 演説ハ和英語ニ限ラズ演説者ノ勝手タルベキ事

第九 會員ハ演説後之ヲ批判スルハ勝手タルベキ事

第十 無方ニ空談高論スルハ大禁ノ事

第十一 傍聴ヲ禁ズル事

第十二 欠席セントスル者ハ時間前之ヲ届出ベキ事

第十四 総テ會員ノ姓名ハ英語アルハベシいろはノ順序ヲ以テ記スベキ事

〔朱書〕 *「但本庁長官学校官員ノ臨視ハ此限ニ非ス」〔原田〕〔加藤〕

〔農一〇四〕

四五六 本科生徒補欠募集に付依頼

六ノ十九号

東京三等出仕

書記官

札幌書記官

当地農学校校費生徒補欠として本年七月其地ニ於而七八名召募候ニ付予而新聞紙ヲ以廣告いたし置度則別紙廣告案其他差廻候間可然御取計相成度尤願書差出期限ハ七月十五日ニ而已ニ期日も相迫リ候事ニ付其辺御含ミ之上迅速御手配有之候様致度又入学試験之義者同校教頭心得ブルツクス暑中休暇ヲ以出京願出候ニ付其節試験為取扱候見込ニ有之候此段及御照会候也

十四年六月一日

〔別紙〕

〔朱書〕
〔広告案〕

今般札幌農学校ニ於テ補關トシテ本科^{農學}學生徒十余名召募候ニ付志願ノ者ハ願書ニ学業履歴書ヲ添ヘ來ル七月十五日限リ東京芝山内本使出張所へ願出シベシ

年 月 日

開拓使

志願者ハ左ノ項目ニ応スルヲ要ス

第一項 年齢十六年以上ニシテ入学後一ケ年以内ニ徴兵ニ当ラサルモノ

第二項 品行方正身体壯健ニシテ種痘或ハ天然痘ヲ畢リタルモノ

第三項 左ノ科目試験ニ合格ノモノ

英語(読書 説話 作文 翻訳) 地理書

算術(分數、比例ヨリ方程式ニ至ル)

漢学(日本外史 十八史略)

〔注〕 願書式、本人契約書、保証人誓約書を略す。

〔農一〇五〕

四五七 一期生卒業後の奉職希望分野申入

Sapporo, June 10th, 1881.

Kaitaku Gonshoshokikwan

Mori Genzo

Director Sap. Ag. College.

Sir;

I take the liberty to write you upon the subject of the future occupations of the present members of the class soon to graduate. Each, at my request, has sent to me a statement of his first and, with two exceptions, also a second choice of future occupation which statements follow:-

Adachi. I. Stock Farming. II. Entomology.

Fujita. I. Civil Engineering. II. Agricultural Engineering.

Hiroi. I. Agricultural Engineering. II. Civil Engineering.

Ikeda. I. Veterinary Practice. II. Stock Farming.

Iwasaki. I. Crops and Fruit Culture. II. Cattle and Sheep Husbandry.

Machimura. I. Stock Farming. II. Crops. (?)

Miyabe. I. Botany and its Practical Applications to Agriculture.

Ota. I. Opening-up (new land). II. Sugar Crops.

Suwa. I. Cattle Breeding. II. Crops & Fruit Culture.

Takagi. I. Pure and Experimental Chemistry in its Relation to Agriculture.

Tsurusaki. I. Civil Engineering. II. Crops. (?)

Uchimura. I. Zoology. II. Fisheries and Pisciculture.

I asked for these statements, believing that as a man usually does best in whatever he likes, we should give all possible weight to the preferences of the students; and after due consultation with those members of the Faculty under whom these students have studied most, I recommend as follows:-

Mr. Adachi may do well in either of the pursuits he has chosen, but in my opinion by study and observation of the habits and life history of insects he may be of most use to the Department. Mr. Fujita may succeed in engineering; and it should be added that whatever use the Department propose to make of him a year of active out-door life is in the opinion of Dr. Cutter imperative, as his lungs are weak.

Mr. Hiroi may do well as an engineer either Agricultural or Civil.

Mr. Ikeda may well be appointed in accordance with his first choice. Mr. Iwasaki, Crop or Fruit Culture, a year in the open

air being necessary. Mr. Machimura, I can not recommend as particularly well suited for any responsible position. Mr. Miyabe should be allowed to pursue botany and a year in the open air will benefit his health. Mr. Ota will succeed in either of the pursuits he chooses; but, at all events, should have a year of out-door life. Mr. Suwa has not special ability in any direction, and office life may be best for him. Mr. Takagi, I can recommend for the pursuit he chooses; but in Dr. Cutter's opinion, he should have a year in the open-air. Mr. Tsurusaki is about equal in ability to Messrs. Machimura and Suwa. Mr. Uchimura absolutely requires a year in the open air and would do well as a collector of natural history specimens. Afterwards his interest in the Fisheries may make him of most service in that direction.

Yours most respectfully,

Wm. P. Brooks,

Act. Pres.

S. A. C.

〔 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〕

四五八 一期生へ積金下付の儀伺

上局^印(調所) 農学校^印(加藤)^印(糸)

農学校生徒積金ハ明治六年ヨリ吾人ニ付月々支給金之内ヨリ弍円
ツ、積立来候処当地転校後者物価高直ニ依リ同年八月金壹円ヲ減
シ支給金ニ相加へ候得共尚支給金之不足ヲ生シ無抱十二年一月ヨリ
者積金相賸シ函館支庁貸付係へ預ケ置利子ヲ増殖シ昨年卒業セシ荒
川重秀以下十二名へ分付之金員別記之通りニ有之候処右積金之義ハ
曾而長官殿ヨリ内諭之儀も有之候処同生徒ハ卒業シ逐々当道江移籍
候ニ付今般被下相成度素ヨリ無益ニ消費ス可キ訳ニ無之永ク恩沢ヲ
忘却セサル為メ該金ヲ以て荒蕪地払下相願団結ノ上拓地之方法ヲモ
為相立候様仕度見込ニ有之候条被下切相成可然哉此段相伺候也

十四年六月十七日

〔別紙〕

十四年 五月調卒業生徒荒川重秀外十人積金

〔朱書〕 明治六年四月廿二日入校より十四年五月三十一日迄

一 金百七拾円〇六拾七錢八厘三毛 荒川 重秀

〔朱書〕

一 金百七拾円〇六拾七錢八厘三毛 伊藤 一隆

〔朱書〕

一 金百七拾円〇六拾七錢八厘三毛 小野 兼基
〔朱書〕 明治七年九月十二日入校より十四年五月三十一日迄

一 金百拾六円九十四錢壹厘三毛 佐藤 勇
〔朱書〕

〔朱書〕 明治九年八月一日入校十四年五月三十一日迄

一 金五拾四円〇弍錢四厘二毛 佐藤 昌介
〔朱書〕

一 同 大嶋 正健
〔朱書〕

一 同 渡瀬寅次郎
〔朱書〕

一 同 黒岩四方之進
〔朱書〕

一 同 内田 澗
〔朱書〕

一 同 田内 捨六
〔朱書〕

一 同 中嶋 信之
〔朱書〕

一 同 柳本 通義
〔朱書〕

一 同 惣計金千〇六拾壹円拾七錢

四五九 仮博物場標本類等送付の件通知

札第貳百八拾三号

〔農一〇四〕

札幌書記官

東京三等出仕

書記官(印)(原)

当地仮博物場備品囊ニ札第二百廿四号ヲ以別記目錄書載朱〇有之分
玄武号ニ塔載其地農学校備用トシテ及御回付置候処這回別記朱〇無
之分悉皆出帆玄武号使ヲ以及御回致候条荷着ノ上可然御取計相成度
且朱△印ハ巨大ノ個数ニ付運搬費等過分ニ及ブヘキ廉ヲ以御回付不
致様決議致候間左様御了承相成度此段申進候也

十四年六月廿五日

〔別紙〕

記

一 礦石類

三千〇拾壹個

右式拾六函入

〇〔朱〕

一 剝製狼

貳頭

一 同鳥類

三拾壹羽

右壹函入

〇〔朱〕

一 剝製鳥類

六拾四羽

〇〔朱〕

右壹函入

一 剝製魚類

三拾八尾

右壹函入

〇〔朱〕

一 海驢剝製大壹頭

三頭

一 麩

壹頭

一 貳頭

同

一 水獺同

同

一 海獺同大三頭 小一頭

四頭

一 快鹿同

壹頭

一 猫同

同

一 製草類

拾四枚

右壹函入

〇〔朱〕

一 熊剝製

大壹頭 小三頭

四頭

一 腦朧獸同

三頭

一 海豹同

壹頭

一 海驢同

同

一 熊頭骨

壹個

一 土人頭骨

壹個

右壹函入

〇〔朱〕

一 額竹縁

式拾七把

一	取崩シ戸棚附属品	数本	一	右老函入	〇〔朱〕
	右老函入			額竹縁	〇〔朱〕
	鳥類額面図	六把		額面附属硝子	〇〔朱〕
	右老函入	三拾三枚		右老函入	〇〔朱〕
一	石材	式本		牛全骨	△〔朱〕
	右老函入			右老函入	
一	金縁額	七面		礦石入戸棚脚	一
	右老函入			右老函入	
一	金縁額	拾面		礦石入戸棚脚	一
	右老函入			右式函入	
〇〔朱〕	金縁額内式面取毀テモノ	五面		礦石入戸棚脚	一
	右老函入			右老包	
一	礦石入取毀戸棚	式個		礦石入戸棚脚	一
	右式函入			右三包入	
一	礦石入取毀戸棚	拾式個		六角硝子戸棚 <small>但シ取崩シモノ</small>	〇〔朱〕
	右六函入			右九包入	
一	礦石入戸棚引出	九拾六個		同扉	〇〔朱〕
	右拾式函入			右式函入	
一	戸棚仕切棒	百廿本		鐵棒 <small>但牛骨支用</small>	△〔朱〕
				右老包	
				礦石入戸棚脚	一
				右式函入	
				礦石入戸棚脚	一
				右老函入	
				額面附属硝子	〇〔朱〕
				右老函入	
				牛全骨	△〔朱〕
				右老函入	
				礦石入戸棚脚	一
				右老函入	
				礦石入戸棚脚	一
				右式函入	
				礦石入戸棚脚	一
				右老包	
				礦石入戸棚脚	一
				右三包入	
				六角硝子戸棚 <small>但シ取崩シモノ</small>	〇〔朱〕
				右九包入	
				同扉	〇〔朱〕
				右式函入	
				鐵棒 <small>但牛骨支用</small>	△〔朱〕
				右老包	
				礦石入戸棚脚	一
				右式函入	
				礦石入戸棚脚	一
				右老函入	
				額面附属硝子	〇〔朱〕
				右老函入	
				牛全骨	△〔朱〕
				右老函入	
				礦石入戸棚脚	一
				右老函入	
				礦石入戸棚脚	一
				右式函入	
				礦石入戸棚脚	一
				右老包	
				礦石入戸棚脚	一
				右三包入	
				六角硝子戸棚 <small>但シ取崩シモノ</small>	〇〔朱〕
				右九包入	
				同扉	〇〔朱〕
				右式函入	
				鐵棒 <small>但牛骨支用</small>	△〔朱〕
				右老包	
				礦石入戸棚脚	一
				右式函入	
				礦石入戸棚脚	一
				右老函入	
				額面附属硝子	〇〔朱〕
				右老函入	
				牛全骨	△〔朱〕
				右老函入	
				礦石入戸棚脚	一
				右老函入	
				礦石入戸棚脚	一
				右式函入	
				礦石入戸棚脚	一
				右老包	
				礦石入戸棚脚	一
				右三包入	
				六角硝子戸棚 <small>但シ取崩シモノ</small>	〇〔朱〕
				右九包入	
				同扉	〇〔朱〕
				右式函入	
				鐵棒 <small>但牛骨支用</small>	△〔朱〕

右壺包

〔朱〕

牛骨据台

壺個

右壺包

牛陽根

壺瓶

右壺函入

〔朱〕

三方硝子小戸棚但取崩シ

壺個

右壺函入

〔朱〕

四角硝子戸棚硝子

三個分

右壺函入

〔朱〕

四角硝子戸棚取崩モノ

同

右五包

〔朱書〕
○印合三拾個

△印 三個

〔農一〇七〕

四六〇 予科修業年限を四年に改正の儀伺

上局(調所)

農学校長権少書記官森源三(印)

農学校予科生徒者修学三年ノ後試験ヲ経而本科ニ入ル可キ定規ニ候
得共三年ニシテ本科入学之方ヲ具フル能ワサル者是迄ノ經驗ニ於而
明了ニ有之依而者三年ヲ四年ニ相改メ別紙教頭心得申出ノ通り科程

相設度此段子而稟申候也

明治十四年六月廿九日

〔別紙〕

千八百八十一年六月八日

開拓権少書記官札幌農学校長森源三閣下

余ハ札幌農学校予備科四年間ノ学業課程ヲ呈シ閣下ノ御参考ニ供ス
ルノ榮ヲ有ス

左ノ課程ハ教員通常会ニ於テ十分ニ討議シ勸考ノ上其内ニ記載スル
所ノ学課ハ教授法ノ宜キニ從ヒ生徒ノ学力ヲシテ本校専門科ニ入り
其課程ヲ踏ニ適合セシムベキ者ト可認シ今余ハ謹デ之ヲ閣下ニ呈シ
御檢閱アラシコトヲ希望ス

札幌農学校予科教授課程

〔注〕
第四級

前期

和英翻譯

每週 六時

讀法及綴字

同 〃

和漢学

同 〃

会话

同 三時

習字

同 〃

暗算	筆算	地理書	讀法解字及綴字	和英翻訳	習字	和漢学	地理書	讀書綴字解字及書取	暗算	和英翻訳	第三級	習字	會話	和漢学	讀法及綴字	和英翻訳	後期		
同	同	同	同	每週	同	同	同	同	每週	每週	前期	同	同	同	同	每週	後期		
二時	四時	〃	〃	三時	三時	六時	〃	三時	六時	三時	第三級	〃	三時	〃	六時	六時			
讀法書取及作文	前期	第一級	運動	和漢学	筆算	万国史	讀法書取及作文	後期	運動	和漢学	地理書	讀法及書取	筆算	文法解字及作文	前期	第二級	習字	和漢学	文法及作文
每週	前期	第一級	同	同	同	同	每週	後期	同	同	同	同	同	每週	前期	第二級	同	同	同
六時	前期	第一級	一時半	〃	〃	〃	六時	後期	一時半	六時	三時	〃	〃	六時	前期	第二級	二時	四時	三時

歴史	同	〃
代数学	同	〃
和漢学	同	〃
運動	同	一時半
農業現術	同	二時
後期		
代数及幾何	毎週	六時
地文学	同	六時
読法演説及作文	同	〃
和漢学	同	〃
運動	同	一時半
農業現術	同	二時
運動ハ毎朝課業ノ終リニ当リ十五分宛行ハシムベシ		
現術ハ通常ノ物ノ名ヲ教ヘ又其用法ヲ解キ格段ニ生徒ヲシテ園圃ニテ用ユル物ヲ熟見セシメ後本科江入り農学ヲ学ブ時ノ補助タラシメントス		
現術ハ毎週午後一回トス		

教頭代理ウキリヤムピブルツクス

[注] 英文書簡には、First Year, Fourth Class とある。

[農一〇四(ブルツクス五七)]

四六一 校園生産物産出高等表(一三年七月〜一四年六月)

明治自十三年七月農学校園墾地表
至十四年六月

比較	官	地	名	畑
	增	北六条西五丁目農学校園	拾九万式千八百五十坪	
減	式万四千〇五十五坪			

明治自十三年七月農学校園産出表
至十四年六月

品目	段別	播種年月	收穫年月	收穫量	肥料
ヲーツ草	五 ^反 、四	四月五日	六月三日	二五 ^噸 、八	鍊ノ粕
同 草	一五、三	五年	八月其日	七、六	鍊ノ粕
チモセイ草		五月七日			
裸 麦 草			九月三日		
野 蜀 黍 草				三、四	
小 麦 草				三、三	
大 麦 草				三、五	
牧 草 草				三、	

種家 類畜	移畜	牝	一
	蕃殖	牝	三
	生馬牛 牝下	牝	三
		牝	二
	牝屠	牝	一
		牝	一
	死亡	牝	二
		牝	三
	殖増 合	牝	一
		牝	三

明治自十三年七月
至十四年六月 農学校園牧畜一覽表

牛	生	バ	同	豚	牛	牛	苜	同	同	同	同	同	排
皮	牛	ダ	臘	乾	肉	肉	乳	繼手	鋤	鋤	鋤	鋤	水管
三枚	五頭	四十二	九十九	二八二	三三三	一〇〇八	二四	一五〇	五五	一〇四	同	同	徑三寸六分
							斤	函					同四寸六分
													同三寸六分
													同二寸六分
													同二寸六分
													同二寸六分
								馬糞					
								餵料					

牛馬治療道具	水量寒暖計	クレール	デギングホーク	ボスホーク	ストーンブホウ	ブルーヒーロー	シカブウホー	ツーホルスハネス	クライントストン	ハートカアータ	ハントカルチヘータ
一式	四個	一個	六挺	拾二挺	壹個	三個	一挺	四組	一台	一挺	二挺
金九拾貳円四拾二錢五厘	金六円	金拾円	金七円五拾錢	金拾七円	金百円	金三円	金壹円	金百六拾八円	金拾円	金貳拾五円	金拾貳円
											價
											格

明治自十三年七月
至十四年六月 農学校園農具器械購入表

家猪	和耕牛	和耕馬	合
一	二	一	六
一	二	一	七
五	二	一	三
九	九	九	五
七	七	七	六

鉄櫛	五拾挺	金拾四円
馬毛挾	貳挺	金拾貳円五錢
同櫛	拾挺	金貳拾貳円四拾錢
寒暖計	二挺	金三元九拾錢
図引道具	一式	金貳拾一円
ハロメートル	一個	金貳拾円

〔農一九〕

四六二 卒業式における演説者及び演題等報告の件

十四年七月七日

森校長

教頭心得ブルックス

卒業式之節演説者ニ撰挙サレシモノ左ノ如シ

英語足立太田高木ノ三氏日本語広井宮部内邨ノ三氏ニテ其題ハ前文之順序ニテ快哉苦後ノ楽、農業ハ開明ヲ賛ク、化学ト農業ノ関係、最高徳義ノ北海道農家ニ必要ナルコト、本草ト農業トノ関係、漁業モ亦學術ノ一ナリ、ノ六題トス

貸費生志願者体格試験ニ付ドクトルカッターノ報告ヲ效ニ進達ス其人各名ハ木村大町小寺安田英禎梁瀬吉田小関小野長谷川ノ十名ナリ敬具

〔注〕 報告を略す。

〔農九二二(ブルックス六〇一二)〕

四六三 ピーボディ満期解雇の儀伺

甲第四拾号

雇外国人解雇ノ儀伺

当使雇米国人札幌農学校数学教師シルポ、パールト、ビポター儀本月三十一日ニテ満期ニ付解雇致度候条至急御裁可相成度此段相伺候也

明治十四年七月十六日

開拓長官黒田清隆 印

太政大臣三条実美殿

〔本番〕 伺之趣聞届候事

明治十四年七月二十七日 印 (太政大臣 三条実美印)

〔道一〇七七〕

四六四 卒業生奉職の届

七月廿七日

当直 橋 協

今日左之辞令相受候旨届出

内村鑑三 宮部金吾 広井勇 池田鷹次郎 高木玉太郎
各通 藤田九三郎 足立元太郎 太田稻造 岩崎行親 町村金弥

御用係申付候事

准判任官月俸三十円

七月廿七日

開拓使

民事局勸業課 内村鑑三 広井勇 太田稻造 岩崎行親 町邸金弥

事務局督学課 宮部金吾 池田鷹次郎

物産局博物課 足立元太郎

製煉課 高木玉太郎

工業局土木課 藤田九三郎

〔注〕『日誌 明治十四年一月』より抜粋。

〔農一〇九〕

四六五 演武場時計落成報時に付届

御 届

演武場時計落成器械運転ノ遅速モ整理致シ自今太陽及星ヲ測リ札幌ノ「ミイン、タイム」中央時ヲ報示候間此段御届申上候也

但シ不時ノ事ヨリシテ障碍ヲ生シ又ハ冬分暴風雪ノ為メ器械運転自由ナラザルハ不得止儀ニ候ヘ共右様ノ節ハ速ニ修正ヲ加ヘ再ヒ転回セシメ精々時ノ過ラザル様勉勵可仕候間此段重而為念御断申上置候也

明治十四年八月十二日

工藤 精一 ㊦

校長

〔農一〇四〕

四六六 巡幸の節天覧に供する化学実験等に付回答

御巡幸御用取扱

農学校

学第三百五十号

第貳百貳十九号御照会之化学術執行順序ハ兵学教場ニ於テ生徒左之演習いたし又同時ニ物理学実験も可供天覧見込候条附記之上併而及御回答候也

十四年八月十三日

化学

- 一 甜菜中ノ砂糖定量法
- 一 海藻ノ沃顛量ル法
- 一 韻母尼亞ノ吸取力
- 一 塩素ノ化合力
- 一 水中硝酸ノ量ヲ検スル法
- 一 物理学
 - 一 空気ノ重量ヲ証ス
 - 一 空気ノ圧力試験
 - 一 空気ノ膨脹性ヲ証ス

以上

四六七 留学生橋口文蔵帰朝の届

乙第六拾六号

海外留学生帰朝之義御届

兼而米国へ留学候当使官費生徒橋口文蔵今般回国マツサチニューエツト、アーマスト学校於テ卒業ノ上本月十六日帰朝候条此段不取敢御届仕候也

明治十四年八月十九日

太政大臣三条実美殿

開拓使三等出仕西村貞陽

〔道一〇七七三〕

四六八 下島孝吉外三名貸費生入学許可に付上申(八月九)

三等出仕(西村)

津田五等属調印

書記官(印(安田)印(小牧)印(金井))

東京出張所詰(印(岡本))

下島 孝吉

山口 壮蔵

安岡備次郎

野沢俊次郎

右者札幌農学校貸費生徒志願人今般教師ブロクス試験を遂体格検査

〔農一〇三〕

及候処前書之四名及第且合格候ニ付左之通各願書へ指令ニ及契約書差出候上者便船次第出発可為致函ニ取計可申存候此段開申仕候也

願書指令案

願之通入校許可候事

明治十四年八月 日 印(開拓使東京出張所)

追而右之外志願人へ者落第之旨可相達管ニ候事

〔農一〇七〕

四六九 官部金吾及び池田鷹次郎東京大学駒場農学校で研究

に付依頼

西村三等出仕殿

小牧権大書記官殿

札幌調所大書記官

御用掛准判任官部金吾同池田鷹次郎儀者農学校ニ於而本年卒業シタル者ニ候処金吾者元来博物学ニ長シ殊ニ本草ニ委シキ者ニ有之候抑同校本草学教授之義者曾而御照会ニ及ヒ置キ候通り旧教師ベンハロ一解約以後適任之者無之不得已教頭心得ブルークスへ強而兼務為致置候茂同氏者数多之業務有之候事ニ付右金吾ヲ以て該科教員ニ可相充見込ニ付其地文部大学其他ニ於而該学科今一層研究為致度又池田鷹次郎義者在校中主トシテ獣医学ヲ修メ候者ニ付是亦同様之見込ヲ以て駒場農学校雇教師及下総牧場等ニ於而広く該科ヲ實際ニ研究為

致度然ルニ兩人共目下願濟出京中ニ付其地ニ於而辭表為差出御用掛
差免候上更ニ學資として一ヶ月金拾六円ツ、支給候様御取計相成且
本人共願出之模様ニ依リ東京大学駒場農藝等江夫々御照会之上修学
都合能ク行届候様御配慮ニ預リ度此段及御依頼候也

十四年九月廿六日

追而辭表差出且學資支給之義等ハ同校長森書記官ヨリ本人共江通
知いたし置候筈ニ付為御心得申添候也

〔農一〇三〕

四七〇 荒蕪地百万坪讓受の儀伺

加藤四等属調印

上局 印(調所)

印(森)札幌農藝印(井川)印(加藤)

租税係

地理係

農学校附属農学校園内茂追々荒地開墾ニ及ヒ畜類等茂繁殖候ニ付而
者当園内之規模擴張致度見込有之候ニ付札幌郡篠路村石狩郡花畔村
之内ニ而別紙画図之荒蕪地凡百万坪該校附属地トシテ御渡シ相成候
様仕度此段相伺候也

明治十四年十月一日

〔注〕 別紙を略す。

〔農一〇四〕

四七一 予科生徒徴兵令第三〇条第六項適用に付伺

上局 印(調所)

農学校 印(森) 印(加藤) 印(加藤)

徴兵令第三十條第六項ニ抛ルニ文部省所轄其他省使ニ属スル官立学
校ニ於而修業一ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒ハ平時ニ於而一ケ
年ヲ限リ徴集ヲ猶予ス可シト有之然ルニ農学校予科生徒之義者稍小
学全科卒業之学力ヲ具フル者ヲ入学セシメ候得共予科ノ定規ヲ卒リ
候後本科ニ就カシムルノ目的ニ而均ク官立学校之生徒ニ付一ケ年以
上就学候上者本科生徒同様該令第三十條第六項ニ相当候義ト相心得
可然哉此段相伺候也

十四年十月廿七日

〔農一〇四〕

四七二 本科通学生徒より授業料徴収の儀伺

校長 印(森)

農学校 印(加藤) 印(加藤)

本科通学生徒之義昨年迄者調所恒徳名而已ニ付別ニ授業料等も上
納不為致候処爾来逐々増加今日ニ至リ而者既ニ六七名ニ及ヒ候然ル
ニ均ク本校生徒ニシテ唯予科生徒而已授業料ヲ徴収候者其当ヲ得サ
ル義ト相考候間本科ト雖トモ通学生徒者来明治十五年一月ヨリ為受

業料毎月金五拾錢ツ、上納為致度御允許之上ハ該金ヲ以テ書籍其他
学科上要用之諸物品ヲ購入或ハ修繕候様仕度此段相伺候也

十四年十一月四日

[農一〇四]

四七三 女子留学生永井繁帰朝の届

乙第八拾五号

留学女生徒帰朝ノ義御届

兼テ米國留学罷在候当使女生徒永井繁義今般新約克州ワスサル大学
校於テ音楽科卒業ニ付帰朝為致客月廿九日来着候条此段及御届候也

明治十四年十一月十二日

開拓長官黒田清隆

太政大臣三条実美殿

[道一〇七七三]

四七四 カッター及びブルックス雇繼の儀伺

甲第六拾六号

外国人雇繼ノ義ニ付伺

当使雇米国人札幌農学校教師ドクトル、ジョン、カラレンス、コッ
タル義本年九月雇滿期ニ付尚尙ヶ年雇繼方甲第三拾九号ヲ以相伺候
処来明治十五年一月迄ノ期限ヲ以条約可取結云々御指令相成右ハ畢

竟当使定額経費年限ニ関シ御指揮相成候事ト被存候得共同校生徒ノ

義ハ学業定期モ有之候ニ付自然定額年度後ト雖トモ必存置セサルヲ
得ス随テ教員モ是非必要ナルハ勿論ニ付学期中ハ雇繼ノ運ニ不相成
候テハ忽チ差支ヲ生シ候就テハ右カツタル并ニ同校教頭心得ウキリ
アム、ビ、ブルウクス義モ来十五年一月六日ニテ雇滿期ニ付更ニ
フルウクスハ二月七日ヨリ向ヶ年間是迄ノ月俸額銀貨コツタル貳百八拾円
コツタルハ二月一日ヨリ向ヶ年間是迄ノ月俸額銀貨コツタル貳百八拾円
其余従前同一ノ条約ヲ以雇繼致度已ニ当使雇外国人中ボウマン、ナ
ル者ハ本年五月ヨリ向一ヶ年間雇繼ノ義甲第拾五号ヲ以テ伺出裁可
濟即定額期限後ニ涉リ候例モ有之候条至急御裁可相成度此段再応相
伺候也

明治十四年十一月廿六日

開拓長官黒田清隆 印

太政大臣三条実美殿

[朱書]
[伺之趣聞届候事]

明治十四年十二月二十七日

印 (太政大臣 三条実美印)

[道一〇七七七]

四七五 宮部金吾及び池田鷹次郎東京大学駒場農学校入校

の願末通知

番外

札幌書記官

東京書記官 印 (原)

御用掛官部金吾及池田鷹次郎義農學校於テ本年卒業生ニ候処同校本草学教授之儀兼テ不充分ニ付右金吾ヲ以テ文部大学等於而該学一層研究為致度又鷹次郎義者駒場農學於テ獸医学研究為致候云々本年九月廿六日付番外御米示之趣ニ依リ其際電信ヲ以テ御照会及候通り其筋協議ヲ遂ケ長官稟議済ヲ以官部金吾ハ客月十四日減俸相達シ翌十五日ヨリ大学へ通学致池田鷹次郎ハ客月廿五日同断減俸相達本月一日ヨリ農務局雇兼務ニテ該費ニ従事為致候都合ニ夫々取計置候間別紙手続之書類写老^(註)抵御廻致候条委曲右ニ御了知有之度回答兼此段申進候也

十四年十二月五日

〔別紙一〕

学第九十四号

第一千五百三拾七号ヲ以テ貴使御用掛官部金吾植物学専修之義ニ付御依頼之趣了承右者同人之為メ別段ニ講義等ヲ設ケ教導致候義ハ難相成候得共本学々生ト共ニ聴講実験等ヲ為シ候義者差支無之候条此段及御回答候也

明治十四年十一月九日

東京大学総理加藤弘之印

開拓権大書記官小牧昌業殿

再伸本文之通りニ而宜敷候ハ、直ニ本人御差出ニ相成候而差支無之候也

〔別紙二〕

貴使第一千五百三拾八号ヲ以テ御用掛池田鷹次郎獸医学科研究之義ニ付云々田中農務局長へ宛御依頼之趣詳細ヲ承致シ候即当局農学校之義ハ成規モ有之屯人ノ為特別授業等之義ハ難被行御依頼ニ応シ兼候得共農務局雇兼勤ニシテ本校ニ従事スルカ如キノ順序ニ至リ候得者生徒ノ正科講義も傍聴シ或ハ病院実習手伝等モ出来候得者自然御来意ヲ洞徹シ可得ト存候果シテ御差支ノ義も無之候ハ、右之抄ニ取計候テハ如何右ハ主管之義ニ付小官ヨリ一応御打合ニ及候否御報有之度候也

十四年十一月十一日

農学校長関沢明清

小牧開拓権大書記官殿

〔注〕 別紙手続書類の内一部を省略した。

〔農一一七〕

四七六 農業叢談停刊の旨上申

上局^(調所)

^(泰)農叢^(中川)^(加藤)^(加藤)

当校農業叢談者学理ト経験トニ論ナク農業ニ関スル事項ヲ採録シテ当道ノ農況ヲ漸次改良セシムルノ趣意ニ有之候処爾来開拓雜誌勸農雜報等逐々発行引続キ勸農協會報告等も其発行近キニ可有之就而者何レモ同一ノ目的ニ付今日ニ在テ故サラニ農業叢談ヲ刊行スルハ別

段要務ニモ有之間敷ト存候間該叢談ハ十八号限り停刷其登記ス可キ
事項ヲ勸農雜報或ハ諸新聞雜誌等江登録為致候ハ、却而公衆ノ看ル
所トナリ其裨益前者ニ相勝リ可申ト被考候間御許允相成度此段上申
候也

十四年十二月十九日

[農一〇四]